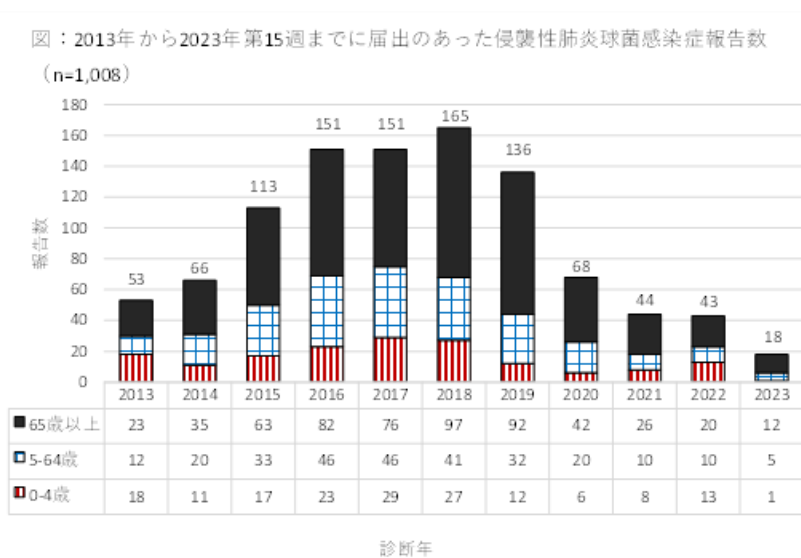


【今週の注目疾患】

《侵襲性肺炎球菌感染症》

2023年第15週に県内医療機関から侵襲性肺炎球菌感染症(Invasive pneumococcal disease, IPD)の届出が1例あり、2023年の累計は18例となった。18例のうち、性別では、男性が12例(67%)、女性が6例(33%)であった。年代別では、65歳以上が12例(67%)と大部分を占め、次いで5-64歳が5例(28%)、0-4歳が1例(6%)であった。ワクチン接種歴については、0-4歳の1例について沈降13価肺炎球菌結合型ワクチン(PCV13)の計4回の接種歴があり、また、65歳以上の1例について23価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチン(PPSV23)の接種歴があったほか、5-64歳の1例について4回のワクチン接種歴(ワクチンの種類は不明)があった。その他は接種歴不明が10例(56%)、接種歴なしが5例(28%)であった。

2013年から2023年第15週までに県内医療機関からIPDの届出が1,008例あった。2018年の年間累計報告数165例をピークにその後は減少傾向が続いており、特に新型コロナウイルス感染症の流行が始まった2020年以降は2019年の年間累計報告数の半数以下となっている。年代別では、65歳以上が568例(56%)で半数以上を占めていた(図)。



肺炎は、2020年及び2021年の本邦における死亡原因の第5位である¹⁾。また、日常的に生じる成人の肺炎のうち、1/4から1/3は肺炎球菌が原因と考えられている²⁾。

肺炎球菌は、乳幼児の鼻咽頭において高頻度に検出され、小児や成人に中耳炎、副鼻腔炎や菌血症を伴わない肺炎などの非侵襲性感染症を引き起こす。肺炎球菌性肺炎は、社会福祉施設等の集団生活の場における肺炎の集団感染や、他の呼吸器感染症(例えばインフルエンザ)に続発する肺炎としてもしばしば認められ、注意が必要である。また、肺炎球菌は、ときに髄膜炎や菌血症を伴う肺炎などのIPDを引き起こす³⁾。

感染経路は主に飛沫感染である。人と人との距離の確保、マスクの着用、手洗いなどの手指衛生が感染対策となる。その他のIPD発症予防として、肺炎球菌ワクチン接種が行われている。

5歳未満の小児の肺炎球菌ワクチンとしては、2013年4月から沈降7価肺炎球菌結合型ワクチン(PCV7)が定期接種対象ワクチンとなり、2013年11月には沈降13価肺炎球菌結合型ワクチン(PCV13)に置き換わった⁴⁾。

一方、成人の肺炎球菌ワクチンとしては、高齢者を対象として2014年10月から23価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチン(PPSV23)が定期接種対象ワクチンとなった⁵⁾。定期接種の対象者は、①65歳の方、及び、②60歳から65歳未満の方で、心臓、腎臓、呼吸器の機能に自己の身の日常生活活動が極度に制限される程度の障害やヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に日常生活がほとんど不可能な程度の障害がある方である。なお、今年度までは経過措置として、年度内(2023年4月1日から2024年3月31日まで)に65歳、70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳及び100歳となる方も定期接種の対象となっている(表)。定期接種の対象の方はこの機会での接種をご検討いただきたい。ただし、過去にPPSV23の接種を受けたことがある方は対象外であるためご注意ください。

表：2023年度（2023年4月1日から2024年3月31日まで）の23価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチン（PPSV23）の定期接種対象者

2023（令和5）年度に	生年月日
65歳となる方	昭和33年4月2日生～昭和34年4月1日生
70歳となる方	昭和28年4月2日生～昭和29年4月1日生
75歳となる方	昭和23年4月2日生～昭和24年4月1日生
80歳となる方	昭和18年4月2日生～昭和19年4月1日生
85歳となる方	昭和13年4月2日生～昭和14年4月1日生
90歳となる方	昭和8年4月2日生～昭和9年4月1日生
95歳となる方	昭和3年4月2日生～昭和4年4月1日生
100歳となる方	大正12年4月2日生～大正13年4月1日生

■参考

- 1) 厚生労働省：令和3年（2021）人口動態統計（確定数）の概況
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/kakutei21/index.html>
- 2) 厚生労働省：高齢者を対象にした肺炎球菌ワクチンの定期接種を実施しています
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001086212.pdf>
- 3) 厚生労働省：13 侵襲性肺炎球菌感染症
<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou11/01-05-09-02.html>
- 4) 国立感染症研究所：IASR Vol.44 2023年1月号
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/pneumococcal-m/1372-idsc/iasr-topic/11763-515t.html>
- 5) 厚生労働省：肺炎球菌感染症（高齢者）
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/haienkyukin/index_1.html